

開催情報

2026年10月31日（土）11:00〜 | オンライン

内容：出版の裏側のお話

主催・話し手：まみ助（姫野蒼子） / 参加者：4名

次回の予定	2026年11月14日（土）・ 2026年11月28日（土） いずれも 11:00〜12:00

本づくりの費用を考えるとき、金額だけでなく「誰に何を届けたいか」から整理する。10月31日のオンライン会で話した内容を、記事と図解・漫画にまとめました。

出版費用はどこで変わる？本づくりの裏側を話した10月31日

本を出してみたいけれど、費用の見当がつかない。
そんなところから、出版の計画が止まることがあります。

10月31日（土）11時から、「出版の裏側」をテーマにオンラインでお話ししました。
4名の方が集まってくださり、私はこれまで編集やKindle出版に関わってきた経験をもとに、商業出版や自費出版、電子書籍の話をしました。

本づくりの費用は、出版社・仕様・頼む工程で変わる

最初のテーマは「商業出版には、どのくらい費用がかかるのか」。

私からお話ししたのは、出版費用は一つの金額では語れないということです。
出版社の規模や体制、本の仕様、編集やデザインなど、どの工程を依頼するかで見え方が変わります。

紙の本をつくるなら、紙や印刷、カバーなど本の仕様が費用に関わります。
電子書籍は紙の印刷をしない形を選べますが、内容を整えたり、表紙を用意したりする工程は残ります。

どんな本にしたいかによって、必要な作業も変わってきます。

だから、金額だけを見比べるのではなく、「その金額には何が含まれているのか」「どこまでを自分で進めて、どこを人に頼むのか」を考えることが大切です。
出版という同じ言葉の中にも、いくつもの進め方があります。

当日の話をもとに、出版費用を考える視点を整理しました。
必要な工程や費用は、本の企画・仕様・依頼範囲によって異なります。

本を出したあと、誰が読者に届けるのか

もう一つ話したのは、本ができた後のことです。

出版社から本を出したら、出版社がすべて売ってくれる。
そう思われることもありますが、私は著者自身も「どんな人に、どう届けたいか」を考えておく必要があるとお伝えしています。
出版社が広報をする場合でも、著者の言葉で身近な人へ伝えることが、本を知ってもらうきっかけになります。

出版の準備をするときには、本をつくる工程だけでなく、誰に届けたいのかも一緒に考えておく。
費用の話を、出版後のことから切り離さないのが、今回の大事な視点でした。

本をつくる理由は、売ることだけではない

私が大切にしたいのは、自分の経験や知恵を身近な人へ残すための出版です。
本をつくるときに大切なのは、まず「誰に、何を届けたいか」を考えること。
話を聞き、その人の大切にしていることを見つけ、読み手に伝わる形へ整えていくのは、紙の本でも電子書籍でも変わりません。

広く売ることを目指す本もあれば、家族や子どもに自分の歩みを渡したくてつくる本もあります。
目的が違えば、選ぶ形も変わります。
紙の本にしたいのか、電子書籍から始めるのか。
編集やデザインをどこまで頼みたいのか。
まず「誰に何を届けたいか」を置くと、その後に考えることが少しずつ見えてきます。

この記事の内容をもとにした説明漫画です。
人物と会話は創作で、当日の実在参加者や実際の発言ではありません。

会話の中では、資金をどう集めるかを含めて考える方法も話題になりました。
費用が気になるときも、金額だけであきらめるのではなく、どんな形なら目的に合うのかを一緒に考えていく。
そういう伴走も、私が出版に関わる中で大切にしていることです。

工程を分けて考えると、次の一歩が見えてくる

会の後半には、企画や構成、編集、Kindleへの登録など、出版をいくつかの工程に分けて考える話もしました。
自分だけでは分からない工程があっても、必要な作業を整理し、経験のある人に相談できれば、次に何をすればよいか考えやすくなります。

出版の知識を聞くだけでなく、その場にいる人の経験を持ち寄り、次に考える工程を整理できるのも、小さな集まりのよさだと感じました。

最後には、出版についてまだ分からないことが多く、何を質問すればよいかも分からないという声もありました。
最初からはっきりした企画を持っていなくても大丈夫です。
話を聞きながら「自分は何を本にしたいのか」を考えていけます。

本にしたい経験や知恵がある方は、まず「誰に、何を残したいか」を一言だけ書き出してみてください。

出版方法や費用を考える入口になります。

次回は、2026年11月14日（土）と2026年11月28日（土）、いずれも11:00〜12:00を予定しています。
聞いてみたいことがあれば、オープンチャットに一言お寄せください。
いただいた声をもとに、次のテーマを考えていきます。

ご興味がある方は、オープンチャット「ひとりでできるKindle出版」に入ってみてください。



当日の話をもとに、出版費用を考える視点を整理しました。必要な工程や費用は、本の企画・仕様・依頼範囲によって異なります。



この記事の内容をもとにした説明漫画です。人物と会話は創作で、当日の実在参加者や実際の発言ではありません。